

有明海に生息する大型種「ビゼンクラゲ」を展示中！

夏の風物詩の雄大な姿がご覧いただけます

大阪市港区の海遊館では、2019年7月11日（木）からクラゲの魅力追求し表現したエリア「海月銀河」にて、有明海に生息する大型種「ビゼンクラゲ」（傘の直径およそ50cm、計4匹）を期間限定で展示しており、その雄大な姿をご覧いただけます。

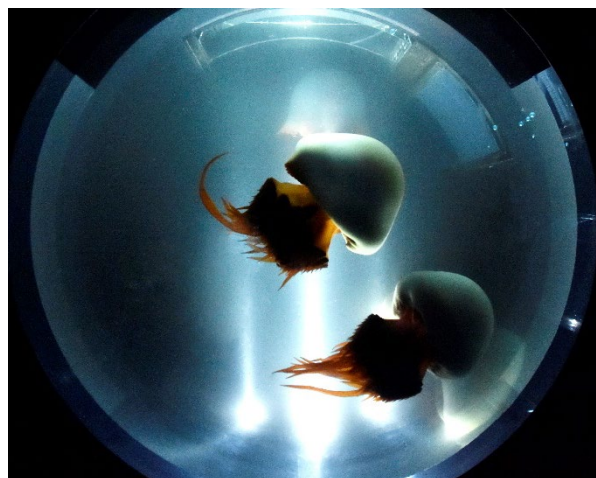
ビゼンクラゲは、熱帯域・亜熱帯域・温帯域の沿海に分布し、日本近海では有明海と瀬戸内海に多く生息しています。

成長すると傘の直径が60cm、重さが20kg程度となる大型のクラゲです。有明海近辺では夏の風物詩として有名で、食用として漁獲されています。

海遊館では2001年より有明海での「ビゼンクラゲ」の調査を行っており、2002年に大型飼育個体の輸送と展示に初めて成功しています。今年も有明海の“クラゲ漁”が始まる時期に合わせて、研究・展示用のビゼンクラゲを採集しました。

ビゼンクラゲの展示は海遊館において夏の風物詩となっております。

海遊館では、「ビゼンクラゲ」の展示をご覧いただくことで、生命の不思議さや自然環境について興味を深めていただければと考えています。



ビゼンクラゲ展示の様子

取材について

「海月銀河」はクラゲの魅力を引き出すため、明るさを抑えた特別な空間となっております。海遊館内の他の水槽より撮影に配慮が必要と考えておりますので事前に海遊館広報チームまでご連絡ください。

連絡先：海遊館広報チーム 06-6576-5529

1. 【期間限定「ビゼンクラゲ」展示概要】

展示期間：2019年7月11日（木）から8月末頃まで（予定）

※生物の状況により、予告なく展示期間や展示数を変更する場合があります。

場 所：海遊館3階「海月銀河」

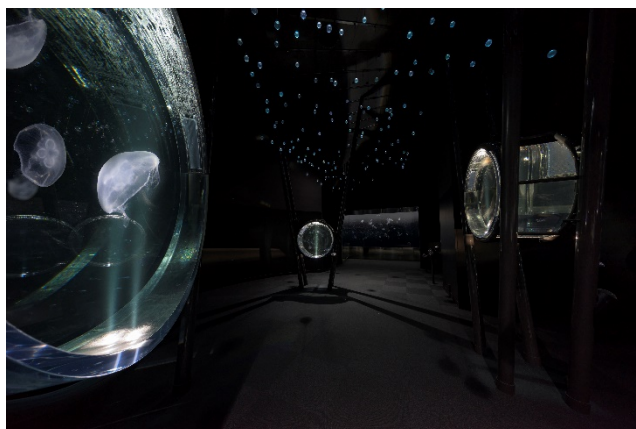
展 示 数：4匹（傘の直径およそ50cm）

2. 【ビゼンクラゲについて】 学名 *Rhopilema* sp.

南日本の沿岸海域に生息する。かつて岡山県児島湾が名産地だったことから「備前クラゲ」の名がつけられたといわれている。有明海沿岸では「あかくらげ」と呼ばれている。食用になり、寒天質の傘の部分は厚くて硬く歯ごたえがある。そのことから英名では「Edible jellyfish」（食用クラゲ）と呼ばれている。大きな個体では60cm、20kgにもなる個体もいるといわれている。傘の縁に触手（しよくしゅ）はなく、8本の口腕（こうわん）には、それぞれ多数の棒状の付属器が付いている。傘は白く、口腕は赤い。傘の縁を力強く開閉させて活発に泳ぐ。7月から10月頃にかけて、有明海沖合で刺網漁（さしあみりょう）によって漁獲される。有明海で見られるものは、他の海域のものと別の種類の可能性もあり、現在研究が進められている。

3. 【海月銀河について】

クラゲの魅力を追求し「浮遊感」、「包容感」、「透明感」、「命の拍動」、「静謐感」を空間全体で表現したエリアとして、2018年3月17日にオープン。水流や照明を工夫した大小12基のクラゲ専用水槽を設置し、ミズクラゲをはじめとする16種約250匹を展示する。バックヤードには、クラゲを繁殖させる特別な施設を備えており、常時クラゲの赤ちゃんを育てている。



海月銀河